

職業奉仕委員会 副委員長 原 誠 吾



本日は、職業奉仕委員会アワーということで、職業奉仕についてお話をさせて頂きたいと思います。

私を龍野ロータリークラブのメンバーとして迎えて頂き、約1年半が経過しました。しかしながら、今までの間、ロータリーの目的や職業奉仕について考えることもほとんどありませんでした。今回、皆さんの前でお話をする事で、改めて考える機会にもなったと思っています。

### ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある。

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること

### 職業奉仕という概念

「ロータリーの目的」は、ロータリーの存在目的とロータリアンの責務について記した哲学的な声明です。職業奉仕は、「ロータリーの目的」の第2項を土台としており、ロータリアンは次のことを奨励し、育むことが求められています。

- ・職業上の高い倫理基準
- ・役立つ仕事はすべて価値あるものという認識
- ・社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること

職業奉仕の実践方法としては、

- ・例会で、各会員が自分の職業について話し、互いの職業について学びあう
- ・地域社会での奉仕プロジェクトで職業スキルを生かす
- ・高潔さを重んじて仕事に取り組み、言動を通じて模範を示すことで倫理的な行動を周囲に促す
- ・若者のキャリア目標を支援する
- ・専門能力の開発を奨励し、指導する

職業奉仕はロータリーの核心であり、世界中の地域社会で奉仕を行う土台となるものです。職業奉仕を実践例から学ぶことも出来ます。同様または類似した活動をクラブで実施したり、これらの例を参考に活動を見直したりすることも必要です。

### 高潔性と倫理

ロータリーでは、高潔性と高い倫理を重視しています。その中でロータリアンによって生みだされたのが、「四つのテスト」と「ロータリアンの行動規一範」の2つであり、職場や生活のあらゆる場面で倫理的行動を実践するための指針となっています。

私自身、「四つのテスト」と「ロータリアンの行動規一範」について、今後もよく勉強していきたいと思っています。

### スキルと職業

職業とスキルの重要性を認識するロータリーには、多様な職業や経験をもつ会員がおり、地域社会のさまざまな職業、ビジネス、団体とのつながりを生かした活動が実践されています。会員には、職業スキルを奉仕に生かし、自らの職業をクラブで代表するとともに、職場においてもロー

タリーの理念を実践する責務があります。実践する為の行動としては、

- ・ロータリアン行動グループに参加する
- ・ロータリー親睦活動グループに参加、または新たなグループを結成する
- ・奉仕プロジェクトで職業スキルを活用する
- ・地区リソースネットワークで専門知識を生かす
- ・職業に関連するロータリー友情交換に参加する

### 職場で高い倫理基準を推進するために

事業や専門職務のリーダーであるロータリアンは、職場や地域社会において模範を示し、高い倫理基準を推進することのできる立場にあります。ロータリアンは、次のような方法で倫理を実践し、奨励できるとあります。

- ・従業員の雇用、研修、指導において、誠意、責任、公平さ、尊重について説明し、その重要性を強調する
- ・仕事仲間による模範的な行動を称え、奨励する
- ・顧客、業者、仕事関係者と接する際は、高い倫理基準を遂行し、思いやりと熟慮をもって行動する
- ・ビジネスや組織において、社会的・環境的に責任ある慣行を推進する

高い倫理を実践し、奨励する為の行動としては、

- ・現会員や新会員への教育の機会を設ける
- ・倫理的ジレンマについて話し合う
- ・倫理の模範を示した人を表彰する
- ・若い人の参加を促す

### 職業研修と職業スキルの向上

職業人同士の交流を目的として設立されたロータリーでは、より良い地域社会を築くために、職業やビジネスにおけるリーダーが力を合わせ、アイデアを交換し、協力関係を築くことの重要性を強調しています。ロータリー会員は、職業に関するスキル研修とサポートを人びとに提供することを通じて、自らの職業スキルの向上にも努める。

職業スキル向上の為の行動としては、

- ・ビジネスネットワークの拡張と職業スキルの向上を目的とした地域イベント
- ・キャリア相談会
- ・次世代の意欲を高める

### 私が所属する信用金庫の役割について

まず信用金庫は、地域の皆様からの出資で成り立つ相互扶助を目的とした協同組織の金融機関です。役割や目的としては、地域でお預かりしたお金（預金）を、地域の中小企業や住民の方に貸し出す（融資）など、業務を通じて地域経済の発展や、地域社会の発展に貢献することです。

私が勤める姫路信用金庫の創業理念の中には「すべてを郷土繁栄のために」という言葉があります。また、基本理念として以下の3つを掲げています。

われわれは、地域社会の住民生活と産業経済の発展に奉仕しよう

われわれは、伝統あるひめしんの伸展に努力しよう

われわれは、自らの教養を高め品位ある人間となろう

やはり信用金庫は信用金庫がある地域の発展の為に貢献し、奉仕していくことが求められています。私自身も自分の仕事に責任感と倫理観を強く持ち、信用金庫職員としての役割を全うすることが、職業奉仕の実践にも繋がっていくものだと思っています。

今後も、このロータリー活動を通じて、多くの事を学び考えていく事で、自分自身のレベルアップを目指していきたいと考えています。

引き続き皆様にはいろいろご指導頂きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

以上で、私の話を終わらせていただきます。本日は、どうもありがとうございました。



### 1. 地区職業奉仕セミナーの概要

日時：2022年1月15日 13:00～17:00

講師：高良 明様（1984年川崎西ロータリークラブ入会 公認会計士）

テーマ：職業奉仕を経営、人生に生かす

- ① 職業（仕事）が、いかに社会を潤し社会経済の発展に貢献しうるか（社会性）
- ② 職業（仕事）が、如何に自己の人間形成、人生の糧になるか（人間性）

#### ・仕事の意味と価値

失業……もつともつらいもの。自尊心や他人からの尊敬を失う。

企業の倒産……職業奉仕の最大悪。倒産の原因にはいろいろあるが真の原因は職業奉仕の経営をしていない事である。

#### ・ロータリーの誕生と職業奉仕

1905年ポールハリスらによって誕生

当初はクラブ会員の事業上の利益増大

1908年シェルドン入会……One profits most who serves best.

奉仕（正しい質、正しい量、正しい行動様式）により利益（物質的な富のほかにも自尊心や仲間からの尊敬）が得られる。多くの奉仕が結果として多くの報酬に結び付く考え方。

#### ・奉仕の理念

ロータリーの目的：意義ある事業の基礎として奉仕の理念（The ideal of service）を奨励し、これを育むこと。

ロータリーのゴールデンルール

「超我の奉仕」「最も多く奉仕するもの最も多く報いられる」

西洋のゴールデンルール

「人にしてもらいたいことは何でもあなたも人にしなさい」

東洋のゴールデンルール

「己の欲せざるところ人に施すことなかれ」

#### ・職業奉仕の経営と人生

企業存続が企業経営の最大テーマ、との認識の下で、日本的経営の特徴、近江商人の3方よし、江戸商人の経営理念、松下幸之助の職業奉仕の経営、稲盛和夫のアメーバ経営による部門別管理会計、渋沢栄一の義利両全経営、などを解説。

### 2. 神奈川県2780地区で作られた「内向きと外向き、分かりやすい職業奉仕」について

キーワード：奉仕に学び、職業で奉仕する（Enter to learn, go forth to serve）

そして職業奉仕には内向き外向きがある。

最近、ロータリーの友なにかに、ロータリーがボランティア団体になってしまった、との論調。しかしここでは、「2016年規定審議会改定が教えてくれたこと」として、「内向き職業奉仕」として「ロータリアン一人一人が職業奉仕の中で奉仕の理念、4つのテストを勉強し、それを自分の職場に持ち帰ります」「そして自らを律し自分の仕事を遂行しましょう」としている。そして「外向き奉仕」として自らの職業的手腕を活かしてクラブの奉仕プロジェクトを積極的に活用しましょう」としている。

### 3. 私がロータリーから学んだこと

若いころは「職業倫理的なもの」を偽善的に感じていた。競争が楽しく、弱肉強食が善だと思っていた。40歳前に高田商店を継いだころから「世の中、カネばっかりとちがうな」と思い始めた。6年前にロータリーに入会してからはいろいろな場面で「確かにそうやな」と思われる職業上の規範に関するお話を聞く機会があった。あるときどなたかに1923年セントルイス大

会の「奉仕の実践に関する決議23-34」を紹介して頂いた。「ロータリーは、基本的には一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人の為に奉仕したいとの感情の間に常に存在する矛盾を和らげようとするものである」。この利己と利他の矛盾を和らげる、とのフレーズが気に入った。この「矛盾」がポイントなのであって、矛盾しているからこそ例会で「4つのテスト」や行動規範を唱和して腑に落としていかないといけないのだろう。ではなぜ、正しいと思う職業奉仕の概念をある意味無理やりに理解しなければならないのか。

妄想だが、人類は200万年間ほど家族を中心とする集団で暮らしてきて、ほんの1万年前あたりから小集団が出来始め、こんなグローバルな集団になったのはごく最近。私たちの頭の奥底は原始時代のままなので、ほおっておけば自分と周りだけ良ければよい、になる。大集団がみんな幸福にくらすためには、長年しみついた「身内だけ良かったらOK」ではなく、別のアップデートしたルールが必要なのであって、それがロータリーの職業奉仕なのだと思う。